

# ひらいし未来会議 報告書

令和5年（2023年）2月

上羽田平石自治会

## 1. ひらいし未来会議について

### (1) 目的

上羽田平石自治会では、65歳以上の高齢者世代人口が増加し、若い世代が増えていない。このままの傾向が続くと、自治会活動の担い手が減少し、従来の共同作業、文化の維持・継承が困難になる恐れがある。

このため、自治会の継承・発展のために、若者世代にも魅力のある住みよい自治会の将来像について考える場として「ひらいし未来会議」を発足した。

### (2) 会議の協議テーマ

「平石が、若者世代に選ばれる集落になるために、今後どうあるべきか。」

### (3) 会議のメンバー

- ・自治会役員 6人
- ・一般参加者 8人（趣旨に賛同する30代～60代の男女）

### (4) 開催状況

	日時	場所	人数	内容
1回	7月23日(土) 19:00～20:30	平石公民館	10人	「平石の良いところ、住みにくいところ」をテーマに意見交換
2回	9月17日(土) 10:00～17:00	平石公民館	19人	資源を活かした地域づくり・再生の考え方や手法を学んでいる県立大学生等を集落へ招き、課題の把握及び住民との意見交換
3回	11月19日(土) 13:30～16:30	平石公民館	16人	・大学生等の再生ビジョン提案 ・平石の良いところを生かした取り組み検討
4回	12月10日(土) 19:00～20:30	平石公民館	9人	・今後の取組みの方向性の確認 ・まず、やりたいこと ・行事・神事の見直し案の検討
5回	1月28日(土) 19:00～20:30	平石公民館	7人	・来年度平石どうする

## 2. 開催結果概要

### (1) 第1回ひらいし未来会議の概要

日 時：令和4年7月23日（土）19：00～20：30

場 所：平石公民館

出席者：集落住民 10人

内 容：「平石の良いところ、住みにくいところ」の2点をテーマに、少人数ずつに分かれて、自由な話し合いをする。

#### <概要>

##### ●話し合いの進め方（ワールド・カフェ方式） 19：00～

ア 参加者は3つの班に分かれ、着席する。

イ 班ごとに話し合い、自分の思ったことや考えたことを模造紙に書く。

ウ 20分経てば、各班1人が残り、他の人は、別の班に移動する。

エ 新しいメンバーで、引き続き、話し合い、模造紙に自分の思いを書く。

オ 20分が経てば、同様に1人が残り、他の人は、別の班に移動する。

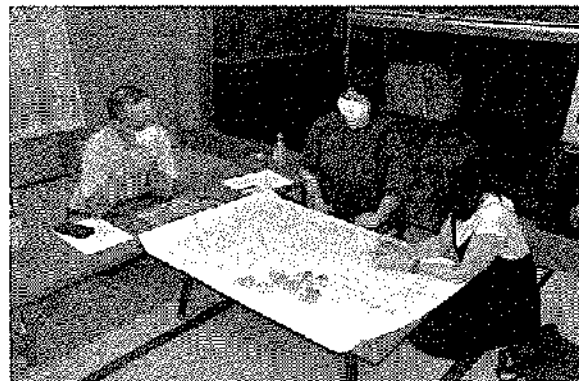
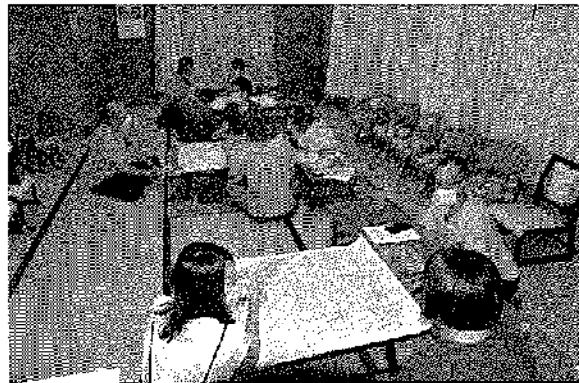
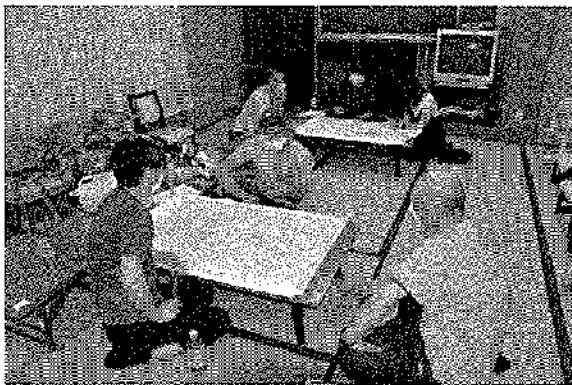
カ 引き続き、話し合い、模造紙に自分の思いを書く。

キ 20分が経てば、話し合いを終了する。

##### ●まとめ 20：15～

各班で、一番多い意見を集約する。

結果は、別紙1のとおり





よいところ

住みにくいところ

◎大自然

- ・朝日がきれい
- ・静かな憩所
- ・風景がよい
- ・空気がキレイ
- ・雪がつかまる(いいかんじで)
- ・朝、晩は過ごしやすい
- ・米がおいしい
- ・夏は涼しい

◎交通の便がよくなった

- ・インターができて便利になった

◎人間性がすごくいい

- ・みんな親切
- ・人があったかいいので子育てによい

◎地域性

- ・戸数が少ないから、決めたら実行しやすい
- ・規則がゆるい
- ・人の目がない
- ・BBQ や花火が自由にできる

◎歴史がある

- ・天神さんが氏神であった
- ・地域の周辺に雪野山古城など歴史的遺産が多い

◎行事・神事

- ・神様のイベントが多い
- ・参加しないといけない
- ・祭事、行事のルーツが不明「そういうもん」という意識
- ・外から来たものにはよくわからない行事、神事が多い
- ・男性のみの行事が多い
- ・順番に家の役があたる

◎自治会の存続が難しい

- ・家の数が少ない
- ・核家族で役員があたるとやりにくい
- ・公民館が古い
- ・草刈りの面積が多い
- ・若い人が少なくなってきた
- ・空き家が増えてきそう
- ・ゴミステーションが古い
- ・区費が高い
- ・自治会の役員が大変
- ・子どもの行事が少ないので地域に愛着がわかない

◎暮らしが不便

- ・車がないとどこもいけない
- ・金融機関がとおい
- ・学校がとおい
- ・お店がない(ドラッグストア)
- ・公民館に入りにくい
- ・行政の窓口が遠い
- ・若い子が集まる場所がない
- ・年をとるのが不安
- ・外灯が少ない
- ・早く日が暮れる
- ・夕日が見えない
- ・自然が多すぎる

## (2) 第2回ひらいし未来会議の概要

日 時：令和4年9月17日（土）10：00～17：00

場 所：平石公民館

出席者：住民11人、大学生等8人

日 程：10:00 大学生等集合

10:15～12:00 大学生等と集落内を歩く（五感で地域を感じる）  
（ランチタイム）

13:00～15:00 大学生等との意見交換（地域の魅力、課題を知る）

15:00～17:00 地域に関わるキーワードの整理

### <概要>

#### ●大学生等と集落内を歩く

今回の参加者は、地域の特性や資源を活かした地域づくり・地域再生を実現するための考え方や手法を実践的に学ぶ滋賀県立大学の集中講義「地域デザインA」の受講生（滋賀県立大学生2人、立命館大学学生1人、滋賀県職員2人）及び担当教員1人と、滋賀県政策研修センター1人、東近江市歴史文化振興課1人

道順 公民館→ 田神さん→ 山の神→ 天満宮旧跡→ 雪野山歴史公園→ 公民館



## ●大学生等との意見交換

### ア 自己紹介

イ あらかじめ実施した「五感体験アンケート」の回答を見ながら、地元住民が平石でのこれまでの体験を振り返って、「平石がどんな集落であったのか」を話し合った。

五感体験アンケート回答の一部

#### 【目に浮かぶ懐かしい風景】

- ・小学校の帰り道、辺り一面が黄色（なたね）
- ・上と下の溜池の異なる風景
- ・小学校からの下校時、南方を抜けると見えてくる雪野山と平石の家々の景色

#### 【耳に残る音】

- ・雪野山に鳴り響くセミの声（今はあまり鳴かない）
- ・わが家で飼っていた牛の鳴き声
- ・羽田神社の大祭時に聞こえる鐘の音

#### 【なつかしい匂い】

- ・稲のかりとりのにおい
- ・山で採れたての松茸の臭い
- ・下肥の臭い

#### 【甦る感触】

- ・釣り竿にかかった魚の引き具合
- ・今のような暖房製品はなく六角形の火鉢をかこみ暖をとった
- ・冬の通学時（小学校）の雪道での冷たさ

#### 【思い出の味】

- ・家でとれたスイカ、マクワ
- ・ふな焼きの味
- ・ついた餅でアラレやかき餅をつくってくれた

### ウ 大学生等（よそ者）の感想

- ・一見すると何気ない景色の中にも歴史が感じられる。
- ・かつての暮らしは自然のめぐみをうまく活用しながら成り立っていたことが分かる。
- ・昔は今の自分たちからは想像もできないような暮らしをしておられた。

## ●集落に関する「キーワード」の整理

- ・自由度が高い
- ・谷川堤防沿いの桜がきれい
- ・縛り（役）がいいのか、悪いのか
- ・幾つかの行事に対する否定的なふるまい
- ・土地や農作物の余剰
- ・人材不足
- ・住民の満足度や充実度が大切

●話し合いの状況





### (3) 第3回ひらいし未来会議の概要

日時：令和4年11月19日（土）13:30～16:30  
場所：平石公民館  
出席者：住民9人、大学生等7人  
日程：13:30～15:00 大学生等からの提案  
15:00～14:30 平石のみらいづくりワークショップ  
(ア) 平石の良いところを活かす  
(イ) 平石の行事の棚卸しを考える

#### ●大学生等の提案『ひらいしむら学校ビジョン』について 平石の課題（2つ）

ア 少子高齢化が進む中で、どのように平石を存続させるのか。

イ 年間行事がたくさんあり、大変であるので整理できないか。

##### お年寄りの思い

- ・平石の良さを理解してくれる人に帰ってきてほしい
- ・平石の町を残したい

##### 若者の思い

- ・やりたいこと、したいことがある
- ・おうちの事情で仕方なく住む
- ・行事が多くて遊びに行けず嫌だった過去

##### 現在の行事（部外者からのイメージ）

- ・めんどくさい
- ・楽しくない
- ・必要性がわからない

##### 未来の行事（部外者からのイメージ目標）

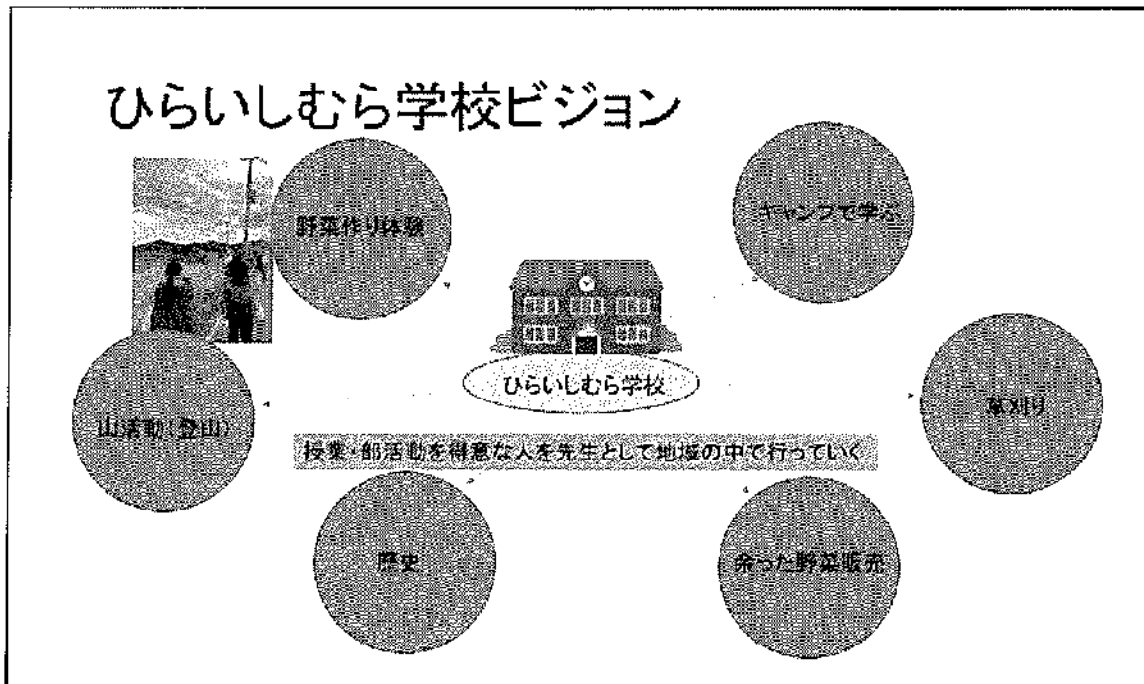
- ・楽しいもの
- ・住民がしたいと思うもの
- ・魅力ある行事へ

平石に縁ある人に戻ってきてほしい

少しでも負担軽減になるような楽しい行事に変えていければ良い

よそ者には決められない

- ◇子、孫世代が帰って来たいと思えるまちづくり
- ◇平石の良さを活かしたまちづくり



ひらいしむら学校ビジョンの概念図

◇専門家の助言（滋賀県立大学上田先生）

・「この一人」の夢を実現できるような自治会であってほしい

学生や若者の地域での活動を指導してきて確信しているのは、「ただ一人」では変えられないが、「この一人」から地域は変わるということである。自治会を含むさまざまな組織・団体というのは、住民一人ひとりの幸せや各住民のやりたいことを実現するためにあるのであって、組織のために住民が犠牲になったり、やりたいことをがまんしたりすることになってしまえば、本末転倒であろう。既に平石にはこの地域の資源を活かしてやってみたいことを持っている「この一人」に当たる人が何人もいるように思う。まずはそうした「この一人」の人の思いを実現できるように、地域の皆で協力してサポートできるようになればと思う。

・時代に適応しながら平石らしさを守ってほしい

地域の行事には、住民がその土地で、ともに、無事に生きていく上で果たした固有の機能がある。一方で、時代とともに生活様式や価値観は変化していくものである。ただ旧来の形式を固守するのではなく、行事の形も時代に合わせて変えていくことも必要であろう。その行事を通して守り伝えられてきた平石のアイデンティティ（平石らしさ。平石の本質）を守りながら、その行事が地域において果たしていた機能を代替することが可能であるならば、旧来の形ややり方にこだわる必要はないであろう。平石らしさを守るためにこそ、あえて変えて行かなければならないこともあるだろう。選択肢としては「やめる」「やすむ」「つづける」の3つがあり得る。いずれにしても、これについては、よそ者が決めることはできない。地域の皆さんで議論されて神・人ともに納得できる形になることを望む。

## ●平石の未来づくりワークショップ

ア 平石の「良いところ」を活かす

- ・めざす目標のコンセプト⇒「みんなの里かえり」
- ・関係人口を増やす⇒子や孫、平石に関りのある人、平石を知る人・・・
- ・平石にあるものを活かす⇒日常の風景、収穫物（お米、柿、栗、いも・・・）、等

みんなで話し合った平石未来ビジョンの概念図は、別紙2のとおり

イ このビジョンは、誰が実行するのか

- ・集落住民でいたいことがある人
- ・学生等を含む関係人口
- ・目的を共有するグループ

ウ 平石の関係人口の中から移住者は現れる。

### (4) 第4回ひらいし未来会議の概要

日 時：令和4年12月10日（土）19：00～20：30

場 所：平石公民館

出席者：住民9人

内 容：19:00～19:30 今後の取組みの方向性の確認  
19:30～20:15 まず、やりたいこと  
20:15～20:30 行事・神事の見直し案の検討

#### ●今後の取組みの方向性の確認

- ・これまでの検討経過を振り返り、次のとおり平石の取組みの方向性を共有した。
  - ア. 平石の良さが理解できる人（関係人口）を増やしていく。
  - イ. 集落の中の人、よそ者も、一緒に楽しめる取組みを行う。
  - ウ. キャッチフレーズは「平石みんなの里帰り」
  - エ. 合言葉は「ただ一人」では変えられないが、「この一人」から地域は変わる。  
→それぞれ得意なことを主体的に取り組む。

#### ●まず、やりたいこと

- ・上記の方向性に沿って、各自やってみたい事を出し合った。

#### ●行事・神事の見直し案の検討

- ・次の見直し案について、みんなで意見交換した。

## <見直し案>

### (1) 山の神について

- ・集落全体の行事としては行わない。
- ・個人の信仰を守るため、山の神の行場に石碑を立て信仰のシンボルとする。
- ・これまで執り行ってきり行事については記録を保存する。

### (2) 早苗ぶり・しゅうしについて

- ・村人が助け合って農業を営んでいた頃の交流行事として続いており、今の生活実態に合わないので、取りやめる。
- ・田神さんの水田は、今後の住民交流等への活用を検討する。

## (5) 第5回ひらいし未来会議の概要

日 時：令和5年1月28日（土）19：00～20：30  
場 所：平石公民館  
出席者：住民 7人  
内 容：来年度平石どうする

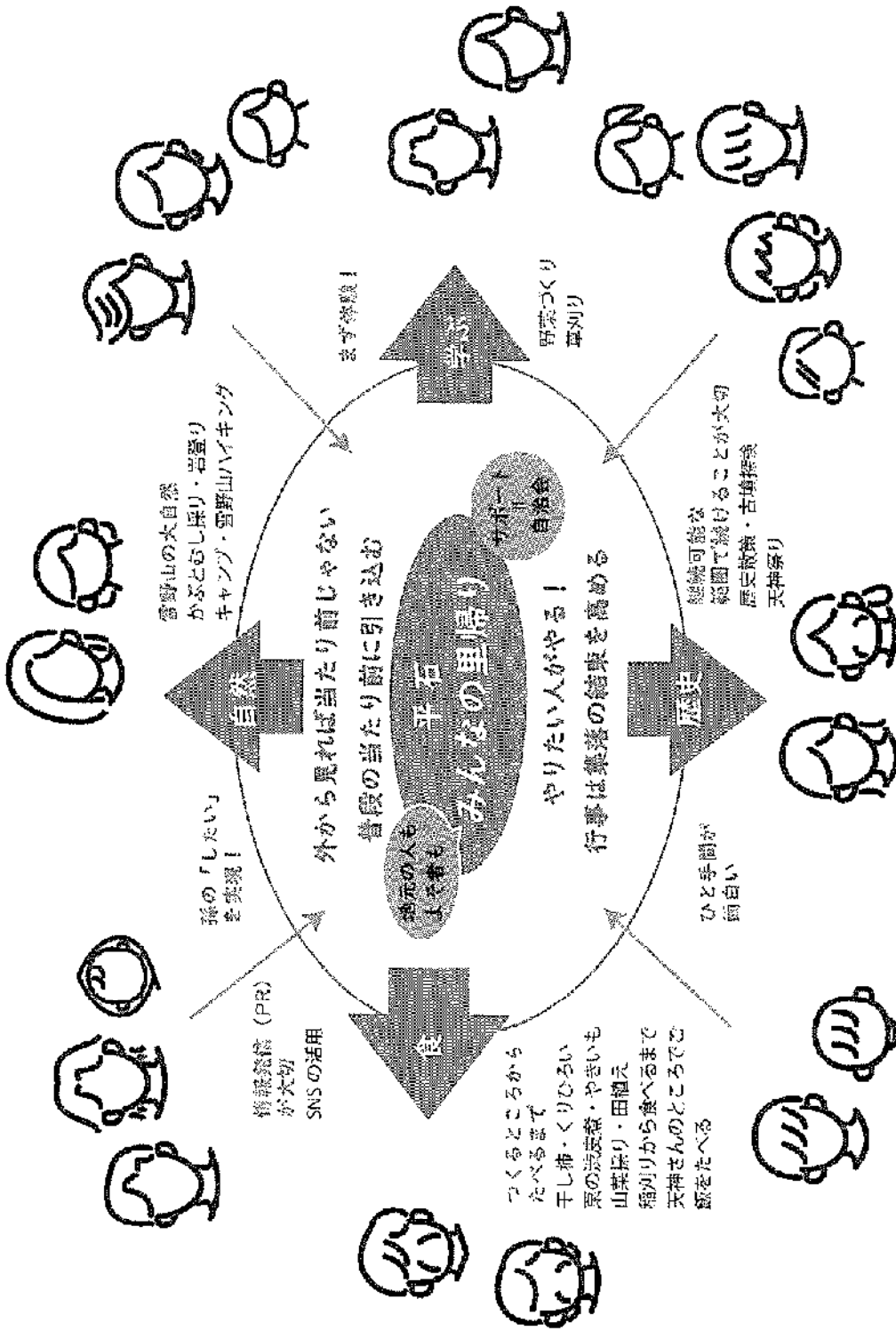
### ●来年度平石どうする

平石のまちづくりのキャッチフレーズ「みんなの里帰り」に沿って来年度、取り組んでみたいことについて、みんなで話し合った。

主な意見は次のとおり

- ・里山に関心のある有志グループによる雪野山散策路の除草作業
- ・田神さんの水田活用（ヒマワリなど景観植物）
- ・日常の野菜づくりを体験
- ・天神さんの環境整備
- ・県立大学学生等に参加を呼びかける。

平石未来ビジョン概念図



孫を迎える気持ちでみんなを受け入れる⇒関係人口を増やす⇒「よそ者」から「地元の人」へ